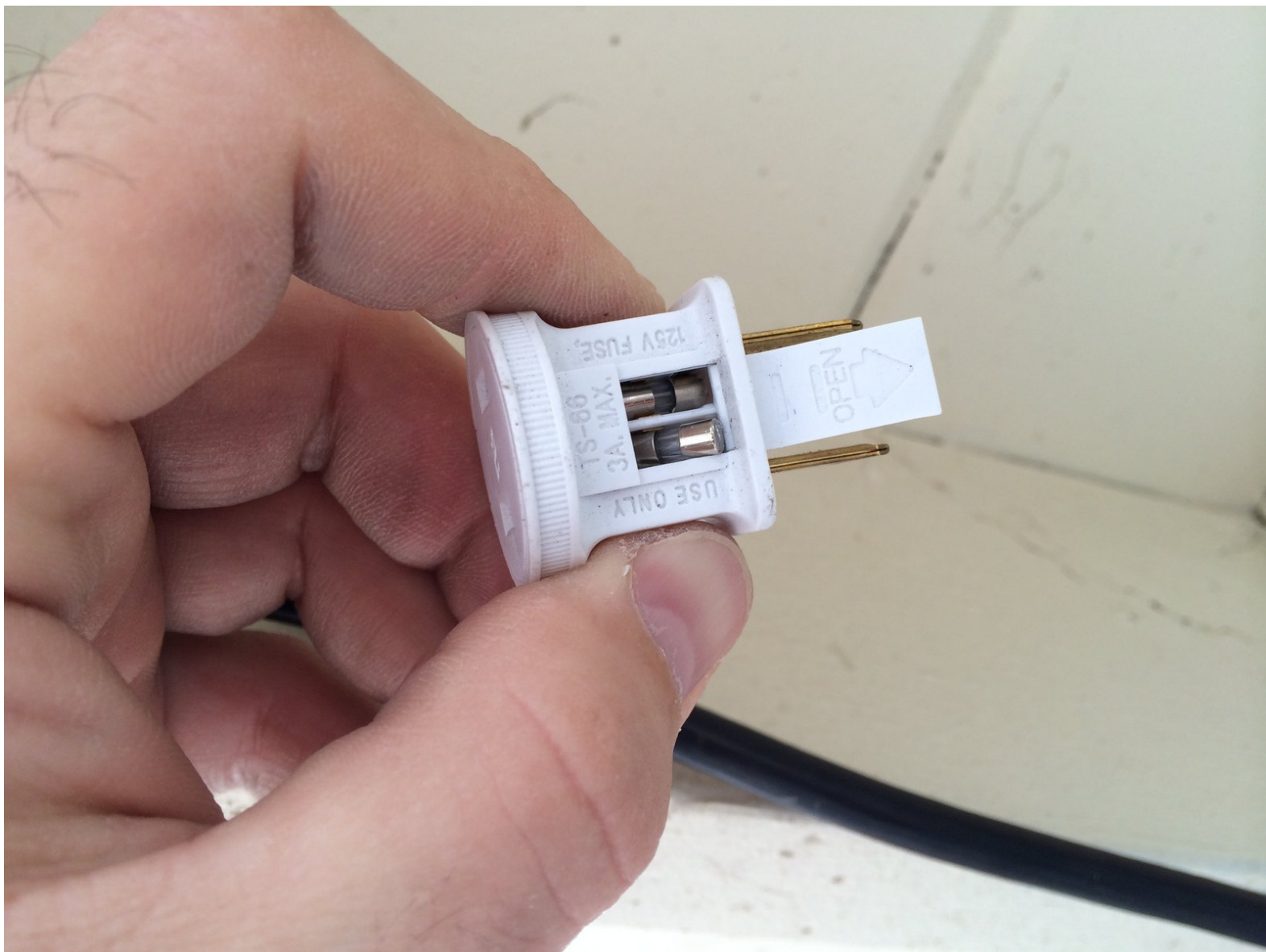




壊れたクリスマスライトの修理

壊れたクリスマスライトに共通する問題を知る為のページです。

作成者: Geoff Wacker



はじめに

クリスマスライトに問題がありますか？このガイドを使って、ライトを修理しましょう！

この修理作業を始める前に、ライトの電源が切れている状態かどうか確認してください。

よくある問題:

1. [断線ヒューズ](#)
2. [バルブの欠損](#)
3. [腐食したソケット](#)
4. [不良のソケットかワイヤリング](#)



ツール:

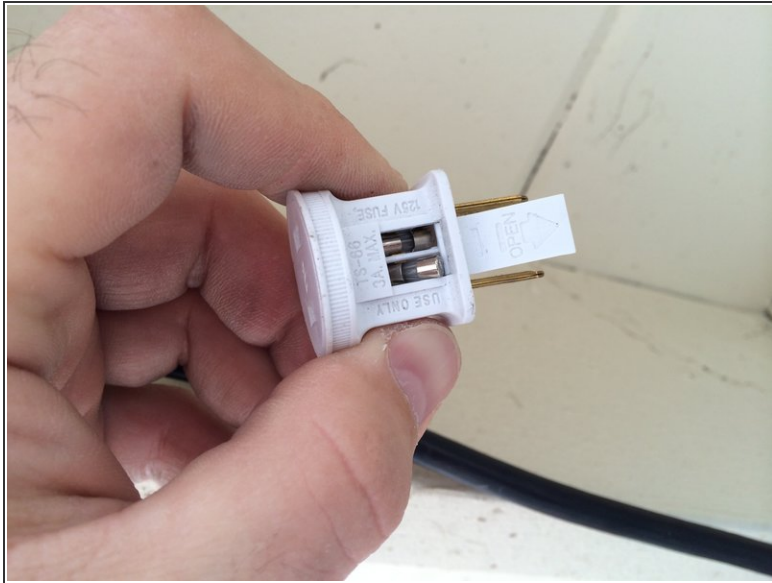
- [ワイヤカッター](#) (1)
- [ヤスリセット](#) (1)
- [ファイバーガラス製スクラッチブラシ](#) (1)
- [Light Keeper Pro](#) (1)



部品:

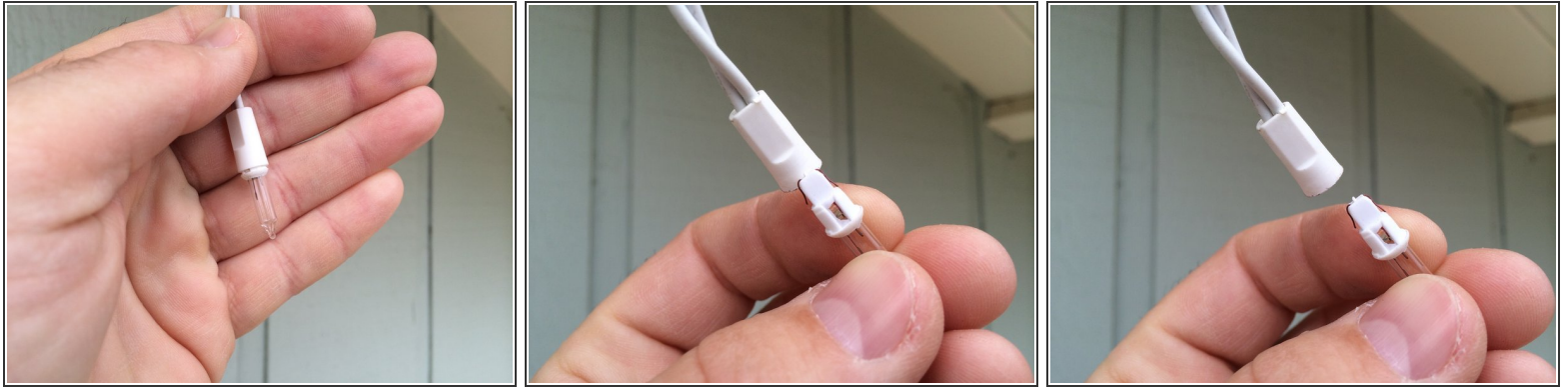
- [3 Amp 125 Volt Christmas Light Fuses](#) (1)

手順 1 — 断線ヒューズ



- 断線ヒューズは壊れたクリスマスライトで最も多い要因の一つです。特にライトの線全体が機能しない場合です。ラッキーなことに、この場合、修理は簡単です。
- 手でプラグを持ち、"開ける/Open"と表記されたドアを矢印で表示された方向にスライドします。
- 2本のヒューズを取り出し、室外など明るい環境で点検してください。ヒューズの状態が良好の場合、2つのメタル製接合部分の間に通っているワイヤには何も損傷がないはずです。
- 断線したヒューズがある場合は、全て新しいものと交換してください。

手順 2 — 欠陥ライト



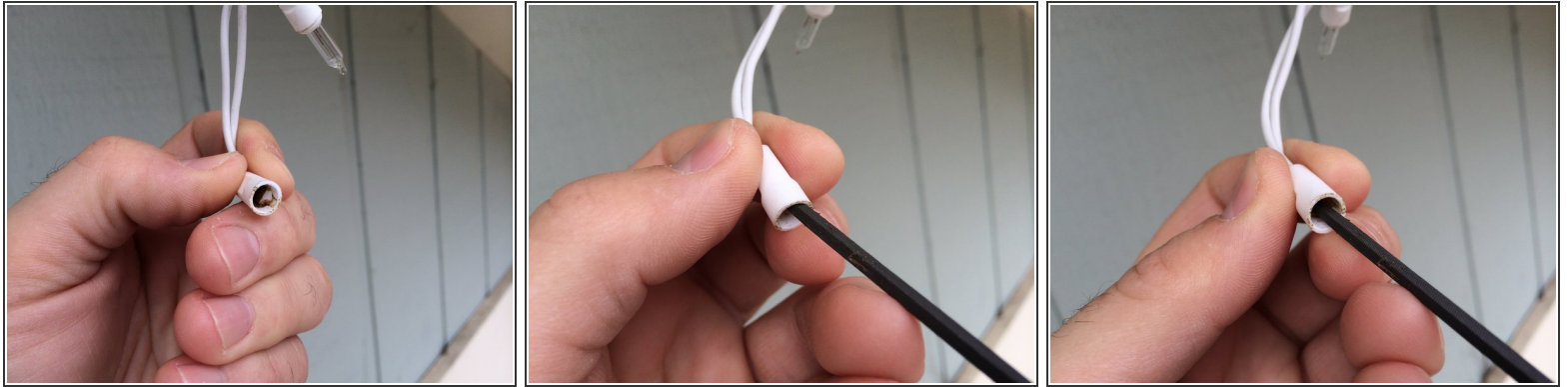
- ライトの特定のパーツが点灯しない場合は電球が切れていたり、電球とソケットの間の接続が上手く機能していません。
- ① 通常、電球が消耗した場合はチェーン全体の電流が切断しないように作られていますが、時々製造上の欠陥により消耗した電球が残りの電球への電気接続を切断してしまうことがあります。
- 丁寧に電球を一つずつ点検します。ソケットから電球を外して2本の銅製リードが正しい位置についており、曲がったり切断していないか確認してください。
- チェーン上の残りの点灯しない電球についても点検を続けます。最後の犯人まで見つけましょう。必要に応じて電球を交換してください。

手順 3 — 欠陥ライト : Light Keeper解説



- 切れたバルブを特定するために[Light Keeper Pro](#) または類似の導通テスターを使うことができます。
- ライトをコンセントに接続し Light Keeper Proをソケットに接続するために電球を外します。
- 切れた電球をバイパスし線全体を光らせるためにLight Keeper の引き金を数回引き、切れた電球はそのままにしておきます。
- 線をテストするために使ったバルブを交換し、切れた電球を取り外し交換します。新しい電球は取り付けの前にLight Keeperを使いテストできます。

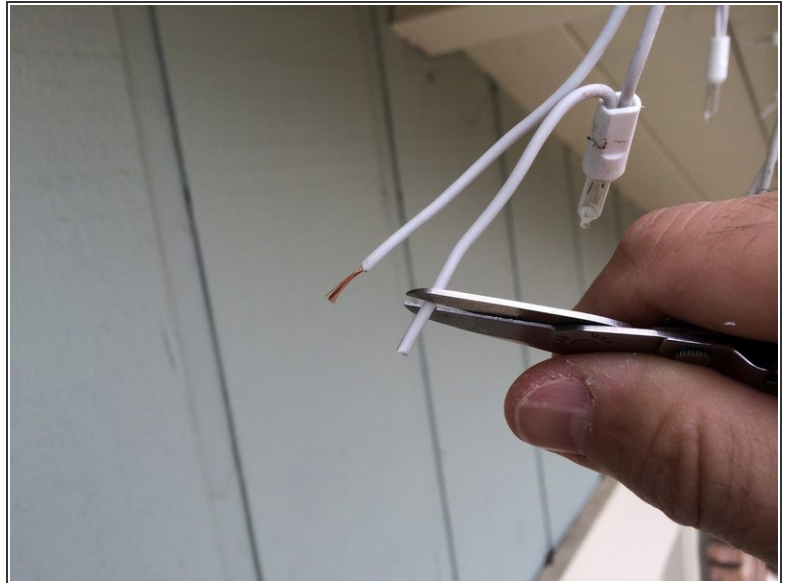
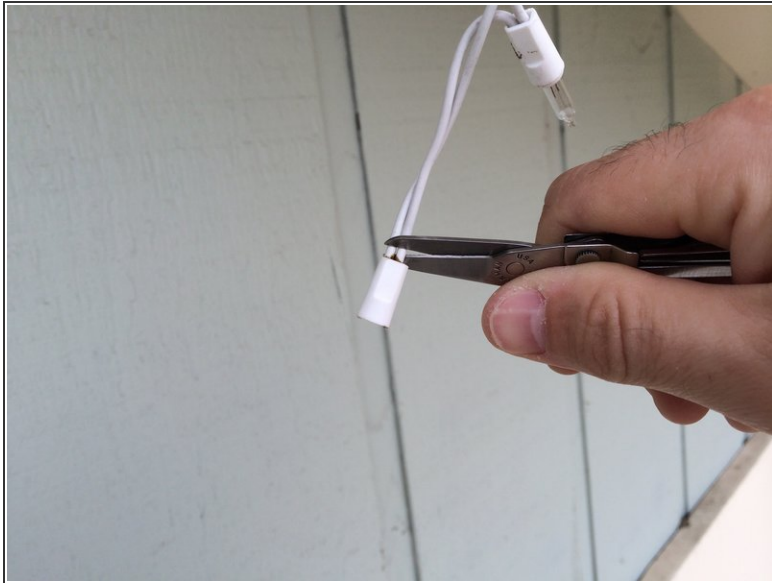
手順 4 — 腐食したソケット



⚠ 作業を始める前に、ライトのプラグを完全に抜いた状態であるか確認してください。

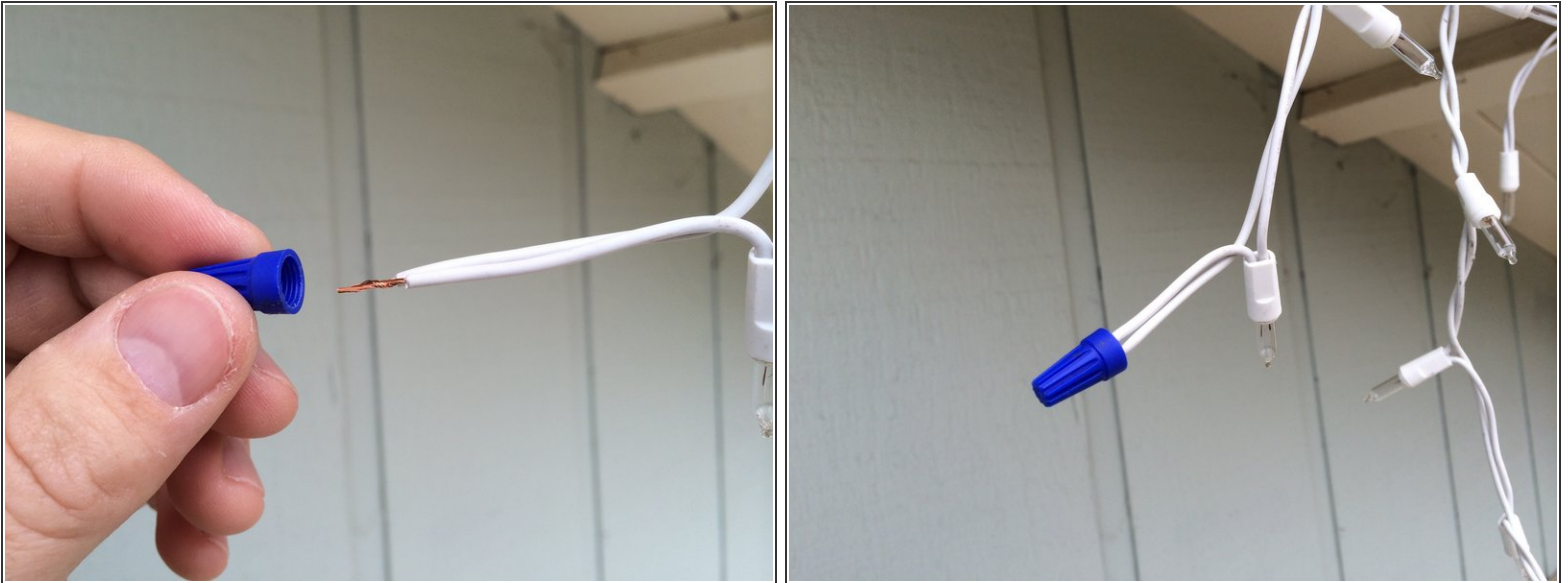
- 時間の経過と共に、ソケット内部の接続が腐食したり、汚れやホコリで覆われてしまうことがあります。この状態では電球とソケットの間の電気接合が上手く機能しません。電球に電流が流れない結果となります。
- 小サイズのヤスリや洗浄ブラシを使ってソケットのワイヤ接続部分を清掃してください。
- ソケットの掃除が終わったら、新しい電球をソケットに取り付けてください。

手順 5 — 不良ソケット/ワイヤ



- ⚠ この作業を始める前にライトが完全にプラグから抜かれた状態であるか必ず確認してください。
- 他のパーツの点検で何も不良が見つからない場合、電球のソケットが修理不可能な状態で壊れていることがあります。ソケットの取り外しはとても簡単です。作業後はライト全体の点灯が戻ってくるはずです。
- ⓘ 1つないしは、2つ以上のソケットを取り外さないでください。ストランドの残りの部分に電圧が上がり、他の電球が焼損する可能性があります。
- ワイヤカッターを使って欠陥のソケットをライトスタンドから取り出します。

手順 6



- 2本のワイヤの先端から約1cm強の長さをストリップしてワイヤを露出させます。
- ワイヤを束ねてツイストして、ワイヤツイスターの中に差し込みます。キャップが安定するまで、コネクタを数回転します。吊り下げた時に取れないようにしっかりと固定します。
- ライトの点検と不良ソケットが全て修理されたことを確認できたら、[シリコン製シーラント](#)(もしくは[ミュージアムワックス](#))をキャップに付けてください。湿気からワイヤを守り、腐食を防止できます。

デバイスを再組み立てするには、これらのインストラクションを逆の順番に従って作業を進めてください。

この文書の最終更新日は 2019-02-14 07:13:55 AM です。